

令和2年度
教育課程研究集会
小学校 生活

奈良県教育委員会事務局
指導主事

学校教育課
堺 隆宏

生活科 目標

具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

(1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。

(2) 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。

(3) 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

生活科の特質に応じた学習の在り方を示す部分（柱文）

① 具体的な活動や体験を通す

児童が体全体で身近な環境に直接働きかける創造的な行為が行われるようにすることを前提とする。

② 身近な生活に関わる見方・考え方を生かす

身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする（身近な生活に関わる見方・考え方）。

③ 自立し生活を豊かにしていく

幼児期の教育で育まれたことを基礎にしながら、将来の自立に向けてその度合を高めるとともに、生活科の学びを実生活に生かし、よりよい生活を創造していく。

育成することを旨とする資質・能力を示す部分

(1) 「知識及び技能の基礎」

活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然やそれらの関わり等についての気付きが生まれること、生活上必要な習慣や技能も活用されるものとして身に付けることを目指している。

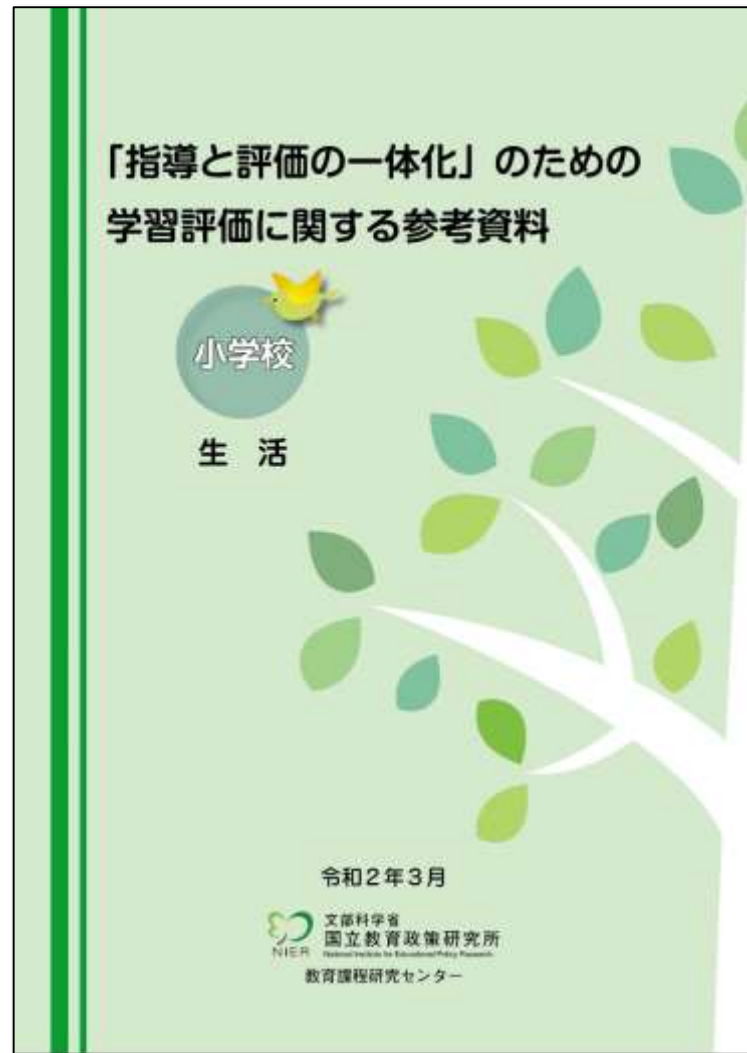
(2) 「思考力、判断力、表現力等の基礎」

思いや願いを実現する過程において、身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考えたり表現したりすることができるようにすることを旨としている。

(3) 「学びに向かう力、人間性等」

思いや願いの実現に向けて、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとすることを繰り返し、それが安定的に行われるような態度を養うことを旨としている。

生活科の学習評価



※参考資料は、下記URLからダウンロードできます。
<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html>

生活科における評価

【小学校学習指導要領 第2章 第5節 生活「第1 目標」】

具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)	(2)	(3)
活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。	身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。	身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。

(小学校学習指導要領 P.112)

学習指導要領に示された教科の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」が作成されている。

【改善等通知 別紙4 生活(1) 評価の観点及びその趣旨 <小学校 生活>】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付いているとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けている。	身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現している。	身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学ぼうとしたり、生活を豊かにしたりしようとしている。

(改善等通知 別紙4 P.13)

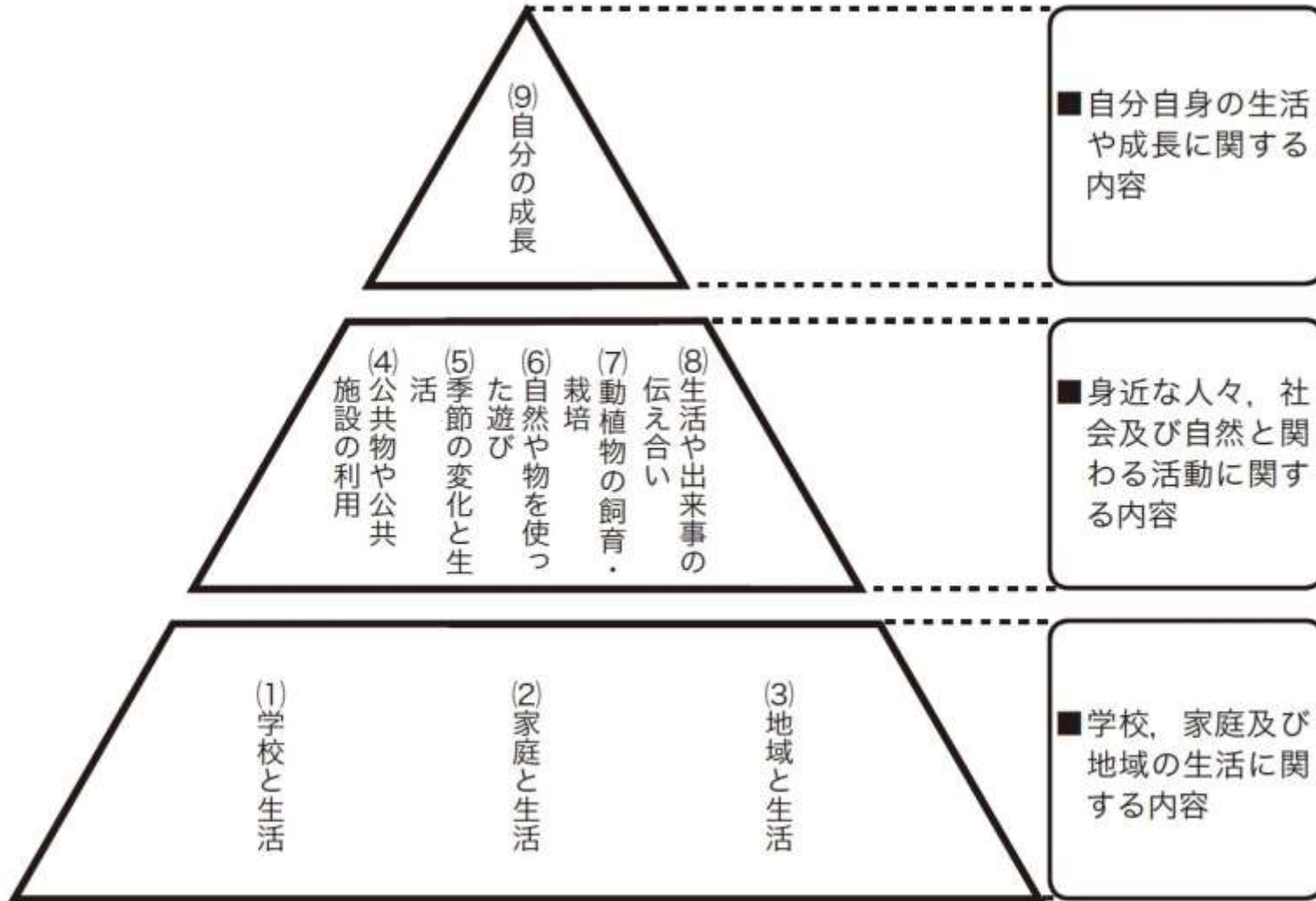
資質・能力の三つの柱で再整理した新学習指導要領の下での指導と評価の一体化を推進するために、評価の観点についてこれらの資質・能力に関わる「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理し示された。

「内容のまとめりごとの評価規準」作成の基本的な手順

① 「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係を確認する。

② 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

生活科の内容



生活科の内容
具体的な活動や体験を通して学ぶとともに、自分と対象との関わりを重視するという生活科の特質を基に、9項目の内容で構成

第3の階層
自分自身の生活や成長に関する内容、内容(1)～(8)の全ての内容との関連が考えられる内容

第2の階層
自らの生活を豊かにしていくために低学年の時期に体験させておきたい活動に関する内容

第1の階層
児童の生活圏としての環境に関する内容

生活科の内容

生活科の各内容には、一文の中に「児童が直接関わる学習対象や実際に行われる学習活動等」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「知識及び技能の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の四つが構造的に組み込まれている。

児童が直接関わる学習対象や実際に行われる学習活動等

「思考力、判断力、表現力等の基礎」に関すること

内容(1) 学校と生活

学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができ、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする。

「知識及び技能の基礎」に関すること

「学びに向かう力、人間性等」に関すること

低学年の児童に、よき生活者としての資質・能力を育成していくために、実際に対象に触れ、活動することを通して、対象について感じ、考え、行為していくとともに、その活動によって、対象や自分自身への気付きが生まれ、それらが相まって学びに向かう力を安定的で持続的な態度として育成し、確かな行動へと結び付けていくことを重視している。

階層	内容	学習対象・学習活動等	思考力・判断力・表現力の基礎	知識及び技能の基礎	学びに向かう力
学校、家庭及び地域の生活に関する内容	(1)	・学校生活に関わる活動を行う	・学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考える	・学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かる	・楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする
	(2)	・家庭生活に関わる活動を行う	・家庭における家族のことや自分でできることなどについて考える	・家庭での生活は互いに支え合っていることが分かる	・自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりしようとする
	(3)	・地域に関わる活動を行う	・地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考える	・自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かる	・それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする
身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容	(4)	・公共物や公共施設を利用する活動を行う	・それらのよさを感じたり働きを捉えたりする	・身の回りにはみんなが使うものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かる	・それらを大切にし、安全に気を付けて正しく利用しようとする
	(5)	・身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を行う	・それらの違いや特徴を見付ける	・自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることなどに気付く	・それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする
	(6)	・身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を行う	・遊びや遊びに使う物を工夫してつくる	・その面白さや自然の不思議さに気付く	・みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする
	(7)	・動物を飼ったり植物を育てたりする活動を行う	・それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち働きかける	・それらは生命をもっていることや成長していることに気付く	・生き物への親しみをもち、大切にしようとする
	(8)	・自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行う	・相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりする	・身近な人々と関わることよきや楽しさが分かる	・進んで触れ合い交流しようとする
自分自身の生活や成長に関する内容	(9)	・自分自身の生活や成長を振り返る活動を行う	・自分のことや支えてくれた人々について考える	・自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かる	・これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活しようとする

「内容のまとめりごとの評価規準」作成の基本的な手順

「内容のまとめり」※内容(1)を例に

学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができ、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする。

学習指導要領 2 内容	知識及び技能の基礎	思考力、判断力、表現力等の基礎	学びに向かう力、人間性等
	学校生活に関わる活動を通して、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かる。	学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができる。	学校生活に関わる活動を通して、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする。

内容のまとめりごとの 評価規準 例	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	学校生活に関わる活動を通して、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かっている。	学校生活に関わる活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えている。	学校生活に関わる活動を通して、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとしている。

①「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係を確認する。

※小学校生活科における「内容のまとめり」とは、学習指導要領に示された9つの内容の一つ一つ

②「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

※「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際のポイント

・それぞれの文末を次のようにする。

(知識・技能)

「分かる」→「分かっている」

(思考・判断・表現)

「考えることができる」→「考えている」

(主体的に学習に取り組む態度)

「しようとする」→「しようとしている」

「単元の目標」の作成の手順

①単元を構成する内容について、学習指導要領に示された記載事項を確認する。

② ①と具体的な学習対象や活動に即して、単元の目標を作成する。

単元を作成する際の留意点

- ・生活科において単元を作成するに当たっては、一つの内容で単元を構成する場合と、複数の内容で単元を構成する場合が考えられる。
- ・複数の内容を組み合わせて単元を構成する場合は、各内容に示された資質・能力の一部が単元から欠けることがないように気を付ける。

「単元の目標」の作成の手順

一つの内容で単元を構成した場合 ※内容(7)を例に

内容(7) 動植物の飼育・栽培

動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、これらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。

単元の目標

モルモットを飼育する活動を通して、モルモットの変化や成長の様子に関心をもって働きかけ、モルモットに合った世話の仕方があることや生命をもっていることや成長していることに気づき、モルモットへの親しみをもち、生き物を大切にすることができるようにする。

①単元を構成する内容について、学習指導要領に示された記載事項を確認する。

② ①と具体的な学習対象や活動に即して、単元の目標を作成する。

この例では、一文で示した単元の目標の中に「児童が直接関わる学習対象や実際に行われる学習活動等」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「知識及び技能の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の四つが構造的に組み込まれている。

「単元の評価規準」及び「小単元の評価規準」の作成の手順

①単元の目標を確認する。

②単元の目標に示された資質・能力を踏まえ、単元の評価規準を作成する。

③学習指導要領解説において、各内容に示された資質・能力に関する記述を確認するとともに、「具体的な内容のまとめりごとの評価規準(例)」を参考に、小単元の評価規準を作成する。

「内容のまとめりごとの評価規準」をより具体的に例示したもの（参考資料の巻末資料に掲載）

「単元の評価規準」及び「小単元の評価規準」の作成の手順

一つの内容で単元を構成した場合 ※内容(7)を例に

① 単元の目標を確認する。

〔単元の目標〕

モルモットを飼育する活動を通して、モルモットの変化や成長の様子に関心をもって働きかけ、モルモットに合った世話の仕方があることや生命をもっていることや成長していることに気づき、モルモットへの親しみをもち、生き物を大切にすることができるようにする。

①単元の目標を確認する。

② 単元の目標に示された資質・能力を踏まえ、単元の評価規準を作成する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
モルモットを飼育する活動を通して、モルモットに合った世話の仕方があることや生命をもっていることや成長していることに気付いている。	モルモットを飼育する活動を通して、モルモットの変化や成長の様子に関心をもって働きかけている。	モルモットを飼育する活動を通して、モルモットへの親しみをもち、生き物を大切にしようとしている。

②単元の目標に示された資質・能力を踏まえ、単元の評価規準を作成する。

「単元の評価規準」及び「小単元の評価規準」の作成の手順

一つの内容で単元を構成した場合 ※内容(7)を例に

③学習指導要領解説において、各内容に示された資質・能力に関する記述を確認するとともに、「具体的な内容のまとめりごとの評価規準(例)」を参考に、小単元の評価規準を作成する。

学習指導要領解説生活編における内容に関する資質・能力の記載事項		
知識及び技能の基礎	思考力、判断力、表現力等の基礎	学びに向かう力、人間性等
動植物の飼育・栽培を行う中で、動植物が変化し成長していることに気づき、生命をもっていることやその大切さに気付くことである。	動植物が育つ中でどのように変化し成長していくのか、どのような環境で育っていくのかについて興味や関心をもって、動植物に心を寄せ、よりよい成長を願って行為することである。	生き物に心を寄せ、愛着をもって接するとともに、生命あるものとして世話しようとする事である。
具体的な内容のまとめりごとの評価規準(例)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 動植物の特徴、育つ場所、変化や成長の様子に気付いている。 育てている動植物に合った世話の仕方があることに気付いている。 生き物は生命をもっていることや成長していることに気付いている。 生き物への親しみが増し、上手に世話ができるようになったことに気付いている。 動植物の飼育・栽培において、その特徴に合わせた適切な仕方で世話をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 動植物の特徴などを意識しながら、育ててみたい動植物を選んだり決めたりしている。 動植物の特徴、育つ場所、変化や成長の様子に着目して、観察したり世話をしたりしている。 動植物の立場に立って関わり方を見直ししながら、世話をしている。 育ててきた動植物のことや心を寄せて世話をしてきたことなどを振り返り、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> よりよい成長を願って、繰り返し関わろうとしている。 動植物の特徴、育つ場所、変化や成長の様子に応じて、世話をしようとしている。 生き物に親しみや愛着をもったり、自分の関わりが増したことに自信をもったりしたことを実感し、生命あるものとして関わろうとしている。

参考資料 P80

単元の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	モルモットを飼育する活動を通して、モルモットに合った世話の仕方があることや生命をもっていることや成長していることに気付いている。	モルモットを飼育する活動を通して、モルモットの変化や成長の様子に関心をもって働きかけている。	モルモットを飼育する活動を通して、モルモットへの親しみをもち、生き物を大切にしようとしている。
小単元における評価規準	①モルモットの特徴、変化や成長の様子に気付いている。		①元気に育てたい、仲良くなりたいという思いや願いをもって、モルモットに関わろうとしている。
	②モルモットも自分たちと同じように生命をもっていること、成長すること、モルモットに合った世話の仕方があることに気付いている。	①モルモットの変化や成長の様子に着目したり、モルモットの立場に立って関わり方を見直したりしながら、世話をしている。	②モルモットに心を寄せ、モルモットの様子に合わせて、繰り返し関わろうとしている。
	③モルモットを適切な仕方で世話をしている。		
	④モルモットへの親しみが増し、上手に世話ができるようになったことに気付いている。	②モルモットとの関わりを振り返りながら、世話をし気付いたことやモルモットへの思い、自分自身の成長を表現している。	③モルモットとの関わりが増したことに自信をもち、関わり続けようとしている。

参考資料 P44

「単元の目標」の作成の手順

二つの内容で単元を構成した場合 ※内容(5)(6)を例に

内容(5) 季節の変化と生活

身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、**それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること**に気付くとともに、**それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。**

内容(6) 自然や物を使った遊び

身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、**遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。**

①単元を構成する内容について、学習指導要領に示された記載事項を確認する。

② ①と具体的な学習対象や活動に即して、単元の目標を作成する。

単元の目標

秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、**秋とその他の季節との違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりして、秋の自然の様子や夏から秋への変化、それを利用した遊びの面白さに気付くとともに、季節の変化を取り入れ自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしたりすることができるようにする。**

複数の内容を組み合わせて単元を構成する場合は、各内容に示された資質・能力の一部が単元から欠けることがないように気を付ける。

「単元の評価規準」及び「小単元の評価規準」の作成の手順

二つの内容で単元を構成した場合 ※内容(5)(6)を例に

① 単元の目標を確認する。

〔単元の目標〕

秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、秋とその他の季節との違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりして、秋の自然の様子や夏から秋への変化、それを利用した遊びの面白さに気付くとともに、季節の変化を取り入れ自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしたりすることができるようにする。

①単元の目標を確認する。

② 単元の目標に示された資質・能力を踏まえ、単元の評価規準を作成する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、秋の自然の様子や夏から秋への変化、それを利用した遊びの面白さに気付いている。	秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、秋とその他の季節との違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりしている。	秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、季節の変化を取り入れ自分の生活を楽しくしたり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしたりしている。

②単元の目標に示された資質・能力を踏まえ、単元の評価規準を作成する。

「単元の評価規準」及び「小単元の評価規準」の作成の手順

二つの内容で単元を構成した場合 ※内容(5)(6)を例に

③学習指導要領解説において、各内容に示された資質・能力に関する記述を確認するとともに、「具体的な内容のまとめりごとの評価規準(例)」を参考に、小単元の評価規準を作成する。

学習指導要領解説生活編における内容に関する資質・能力の記載事項		
知識及び技能の基礎	思考力、判断力、表現力等の基礎	学びに向かう力、人間性等
遊びや遊びに使う物を工夫してつくことで、児童が、遊びの面白さとともに、自然の不思議さにも気付くことができるようにすることである。	試行錯誤を繰り返しながら、遊び自体を工夫したり、遊びに使う物を工夫してつくったりして考えを巡らせることである。	自分と友達などのつながりを大切にしながら、遊びを創り出し、毎日の生活を豊かにしていくことである。
具体的な内容のまとめりごとの評価規準(例)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然や物は、いろいろな遊びに利用できることに気付いている。 遊びの楽しさや遊びを工夫したり遊びを創り出したりする面白さに気付いている。 自然の中のきまり、自然の事象の不思議さに気付いている。 約束やルールが大切なことやそれを守って遊ぶと楽しいことに気付いている。 みんなで楽しく遊ぶ際、道具や用具の準備や片付け、掃除、整理整頓をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しみたい遊びを思い描きながら、遊びに使う物を選んでいる。 予想したり、確かめたり、見直したりしながら、遊びに使う物をつくったり遊んだりしている。 比べたり、試したり、見立てたりしながら、遊びを楽しんでいる。 遊びの約束やルールなどを工夫しながら、遊んでいる。 遊びを工夫したり、友達と楽しく遊んだりしたことを振り返り、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> みんなで楽しく遊びたいという願いをもち、粘り強く遊びを創り出そうとしている。 友達のをさを取り入れたり自分との違いを生かしたりして、遊びを楽しもうとしている。 みんなで遊ぶと生活が楽しくなることを実感し、毎日の生活を豊かにしようとしている。
振り返り、表現している。		

参考資料 P 79

参考資料 P 78

単元の 評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、秋の自然の様子や夏から秋への変化、それを利用した遊びの面白さに気付いている。	秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、秋とその他の季節との違いや特徴を見付けたり、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりしている。	秋の自然を見付けたり遊んだりする活動を通して、季節の変化を取り入れ自分の生活を楽しんだり、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしたりしている。
小単元における 評価規準	1	①校庭や公園の秋の自然の様子や特徴、夏から秋への移り変わりに気付いている。	①楽しみたい遊びを思い描きながら、校庭や公園の秋の自然の中から遊びに使う物を選んでいる。 ②諸感覚を生かして、校庭や公園の秋の自然に関わっている。
	2	②校庭や公園の秋の自然はいろいろな遊びに利用できることや、遊びを工夫したり遊びを創り出したりすることの面白さに気付いている。	③遊びの約束やルールなどを工夫しながら、遊んでいる。 ④比べたり、たどえたり、試したり、見通したりしながら、遊びを楽しんでいる。
	3	③みんなで楽しく遊ぶ際、道具や用具の準備や片付け、掃除、整理整頓をしている。	④遊びには約束やルールや大切なことやそれを守って遊ぶと楽しいことに気付いている。
			③みんなで遊ぶと生活が楽しくなることを実感し、毎日の生活を豊かにしようとしている。

参考資料 P 59

観点ごとの「評価規準」の作成のポイント

(1) 知識・技能

「知識・技能」の観点については、

- ①気づきが自覚されること、②個別の気づきが相互に関連付くこと
- ③対象のみならず自分自身についての気づきが生まれること

を気づきの質の高まりとして見取ることが大切である。また、生活上必要な習慣や技能については、特定の習慣や技能を取り出して指導するのではなく、思いや願いを実現する過程において身に付けていくものであることに留意する必要がある。

「知識・技能」のうち、知識に関する評価規準(例)

・評価規準の構造を「〇〇に気付いている」、「〇〇が分かっている」などとして作成。

※ 〇〇には、気づきなど知識の基礎の具体を記述する。

「知識・技能」のうち、技能に関する評価規準(例)

・評価規準の構造を「△△において(の際)、〇〇している」などとして作成する。

※ △△には学習活動を、〇〇には学習指導要領解説生活編(P14)に示された習慣や技能を参考にして、具体を記述する。

単元における評価規準	1	①モルモットの特徴、変化や成長の様子に気付いている。
	2	②モルモットも自分たちと同じように生命をもっていること、成長すること、モルモットに合った世話の仕方があることに気付いている。 ③モルモットを適切な仕方で世話をしている。
	3	④モルモットへの親しみが増し、上手に世話ができるようになったことに気付いている。

観点ごとの「評価規準」の作成のポイント

(2) 思考・判断・表現

「思考・判断・表現」の観点については、

- ①見付ける、②比べる、③たとえるなど、分析的に考えること、
- ④試す、⑤見通す、⑥工夫するなど、創造的に考えることを踏まえる必要がある。

「思考・判断・表現」に関する評価規準(例)

・評価規準の構造を「〇〇して（しながら）、△△している」などとして作成する。

※ 〇〇には、具体的な学習活動において期待する思考を、△△には具体的な児童の姿を記述する。

※ 思考を具体的に表したものとして、

- ①見付けて…思い起こして、感じて、気にしながら、意識しながら など
- ②比べて…特徴でまとめながら、違いで分けて、順序を考えながら など
- ③たとえて…知っていることで表しながら、関連付けながら、置き換えて、見立てて など
- ④試して…実際に確かめながら、調べたりやってみたりして、練習しながら など
- ⑤見通して…思い描きながら、予想しながら、振り返って など
- ⑥工夫して…生かしながら、見直して など

※ 具体的な児童の姿として、以下が考えられる。

- ・観察している、関わっている、記録している、方法を決めている、表している、集めている、楽しんでいる、遊んでいる、交流している、捉えている、知らせている、利用している、伝え合っている、計画を立てている など

小単 二 つ る 評 価 規 準	1	
	2	①モルモットの変化や成長の様子に着目したり、モルモットの立場に立って関わり方を見直したりしながら、世話をしている。
	3	②モルモットとの関わりを振り返りながら、世話をしている気付いたことやモルモットへの思い、自分自身の成長を表現している。

観点ごとの「評価規準」の作成のポイント

(3) 主体的に学習に取り組む態度

「主体的に学習に取り組む態度」の観点については、

- ①「粘り強さ」…思いや願いの実現に向かおうとしていること
- ②「学習の調整」…状況に応じて自ら働きかけようとしていること
- ③「実感や自信」…意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとすることを繰り返し、安定的に行おうとしていること

などを踏まえる必要がある。

「主体的に学習に取り組む態度」に関する評価規準(例)

- ・ 評価規準の構造を「〇〇し、△△しようとしている」などとして作成する。
※ 具体的な学習活動に即して、〇〇には、①粘り強さ、②学習の調整、③実感や自信に関して具体的に表したものを、△△には具体的な児童の姿を記述する。

小 単 元 に お け る 評 価 規 準	1	①元気に育てたい、仲良くなりたいたいという思いや願いをもって、モルモットに関わろうとしている。
	2	②モルモットに心を寄せ、モルモットの様子に合わせて、繰り返し関わろうとしている。
	3	③モルモットとの関わりが増したことに自信をもち、関わり続けようとしている。

指導と評価の計画 事例1 <内容(7) 第2学年>

3 指導と評価の計画 (16時間)

小単元名 (時間)	学習活動	評価 規準	評価方法
1 見てさわ ってなか よし大さ くせん(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生からモルモット飼育を依頼され、話し合う。 ・獣医師から、モルモットについての話を聞き、モルモットと関わる上で、気を付けなければならないことを知る。 ・モルモットに触れたり、えさを与えたり、一緒に遊んだりしながら、モルモットを観察する。 	態① 知①	<ul style="list-style-type: none"> ・行動観察や発言分析、観察カードの分析 ・観察カードの分析、発言分析
2 お世話で なかよし 大さくせん(4)	<ul style="list-style-type: none"> ・モルモットの飼育環境やえさ、世話の仕方などを調べる。 ・モルモットの様子に合わせて、世話の仕方を工夫する。 	知② 思①	<ul style="list-style-type: none"> ・発言分析、調べ活動のメモの分析 ・行動観察、発言分析、モルモットの成長の分析
3 ぼく・わ たしとモ ルモット (5)	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでのモルモットの飼育活動を振り返る。 ・世話をして気付いたことやモルモットへの思い、自分自身の成長を、モルモットの本に表現する。 	知④ 態③ 思②	<ul style="list-style-type: none"> ・作品(モルモットの本)や発言分析 ・作品(モルモットの本)や発言分析、行動観察 ・作品(モルモットの本)や発言分析

具体的事例③

参考資料 P45、46

※単元の評価規準の指導計画への位置付けについては、総括的な評価を行うためにも、児童の姿となって表れやすい場面、全ての児童を見取りやすい場面を選定することが重要である。

学習評価については、日々の授業の中で児童生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要であること。したがって観点別学習状況の評価の記録に用いる評価については、毎回の授業ではなく原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場面を精選することが重要であること。
(平成31年3月29日付け文部科学省通知より)